

町内に数多くの縄文遺跡が残る5千年前、
新井田・小森・保呂毛は海だった



細浦魚竜化石
昭和27年、細浦で発見されたジュラ紀の魚竜化石(クチバシ部分)で、アジア地域では初めて発見されたもの。魚竜(イクチオザウルス)は今から一億五千年前の中生代ジュラ紀に生息していたといわれるハチュウ類。リアス・アーク美術館にてレプリカ所蔵

志津川には中生代三畳紀からジュラ紀にかけての地層がひろく分布しており、二枚貝やアンモナイトの他、魚竜の化石も見つかっています。

志津川にいつから人が住むようになったか定かではありませんが、折立にある大平館跡からは7千年も前の住居跡が見つかっています。縄文時代は今より温暖で海面も高く、八幡川や水尻川は入江となつてずっと奥まで入り込んでいたようです。その時代の土器や石器が町内の多くの場所で発見されています。

やがて、縄文の狩猟採集社会から農耕定住社会へとかわり、入谷や田尻畑、保呂毛といった沢沿いから集落ができ始めたと考えられます。保呂毛の蝦夷塚などは「海道の蝦夷」と呼ばれた時代の有力者の古墳かも知れませんが、この時代の志津川のことはあまり分かっていません。

本吉荘の砂金を支えた、
平泉の黄金文化と義経伝説の時代

850年以上も前、平安時代の志津川は本吉庄(もとよししょう)と呼ばれ、藤原摂関家の荘園でした。その頃、志津川では砂金が採れ、入谷産金は大きな注目を集めていたようです。また馬

を生産していたこともわかっています。金色堂も志津川から出た金で飾られた

と思われます。そんなことから、平泉からは藤原秀衡の四男・本吉四郎高衡が派遣され、朝日館に住むようになったと伝えられています。そのためか、志津川には源義経にまつわる伝説が多く残っています。御前下の小森御前の悲恋物語もまた義経追討時の伝説です。

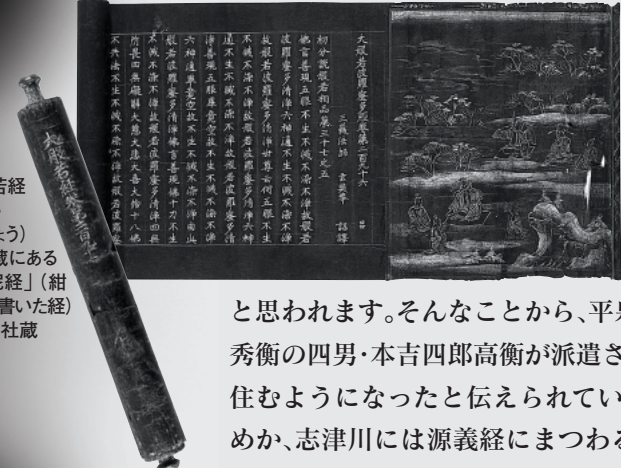


朝日館
市街地の西、大雄寺の向かい山に、今も見ることができる朝日館跡は、平泉藤原時代の高衡の住居跡と伝えられている



小森御前
源頼朝が平家追討の折りに義経に求められ参戦した紀州那智の豪族鈴木三郎重家の妻「小森御前」。夫を尋ね、奥州を目指したが、志津川の地に辿り着いたときに重家が戦死したことを聞かされ、志津川で自ら命を絶った。その最期を哀れんだ村人たちが祠を建て、今でも「小森御前様」と呼んで祀っている

紺紙金泥大般若経
(こんしきんでい だいはんにやきょう)
平泉中尊寺経蔵にある国宝「紺紙金泥経」(紺の紙に金文字で書いた経)の一部。荒沢神社蔵



前史

今なお多く残る板碑や古碑が語る、
朝日館葛西時代を経て

奥州藤原氏が源頼朝に滅ぼされた後は、鎌倉の武士が東北地方を統治するようになりました。葛西氏は、宮城県北から岩手県南部までを400年にわたり治めました。葛西氏が豊臣秀吉に滅ぼされた後は、伊達政宗の領地となり、入谷と戸倉は分割して家臣に与えられ、清水川(志津川の旧名)には代官が派遣され、直轄地となりました。



●千人仏の板碑(入谷信倉)

板碑・古碑
故人供養のために石に梵字を刻む「板碑」。14世紀の南北朝時代には志津川でも流行し、その後100年以上にわたり、その風習は続いた。当時、集落を成していた新井田や折立、入谷などに板碑が多く残っているが、なかでも波伝谷には、1283年建立の気仙沼・本吉地方最古の板碑が今も残っている。その後、江戸時代に建立された古碑も町内には多く現存する



●宝魚神社(細浦)

太郎坊の杉
1609年、仙台城大手門前の大橋建設の際に、材料となる杉を求められた荒沢神社境内にある、樹齢800余年を誇る巨木。根まわり11.7m、樹高約42m、県の天然記念物に指定されている



曼荼羅(まんだら)
俗に日時計などとも言われる曼荼羅は佛(ほとけ)の世界を象徴的に描いたもの。町内にはいくつかの曼荼羅が今も残っている。写真は荒沢神社境内に残っているもの

町内で養蚕・製塩・舟運がはじまり、
伊達藩の繁栄を支える地域として

伊達藩直轄地となった清水川(志津川の旧名)では、江戸寛文年間の1670年頃には、街区の区割りが行われたと伝えられています。十日町には代官所や御蔵が、五日町には修験道場があり、本吉南方の行政の中心であったようです。安永3年(1774年)の記録では志津川地域には335隻の船があり、そのうち五大木船と呼ばれる大型船8隻によって石巻方面との出買と呼ばれる商業運輸が行われていたようです。また高橋藤兵衛などの尽力による製塩業の発展や、山内甚之丞による養蚕業の始まりにより、志津川は伊達藩領内に大きな役割を果たしました。

そして明治の廃藩置県に伴い、明治5年(1872年)には志津川村・荒戸(砥)浜・清水浜は合併され本吉村に、明治8年(1875年)には折立村・水戸辺村・滝浜・長清水浜が合併し戸倉村となりました。明治15年ごろの志津川の人口は、本吉村・戸倉村・入谷村を合わせても6800人ほどで、通りは道幅もずっと狭く、市街地は五日町と十日町周辺だけだったと言われています。

